

地 方 創 生 対 策 特 別 委 員 会 記 録

1 会議の日時	<p style="text-align: center;">平成28年12月14日</p> <p style="text-align: right;">開 会 午前 9 時 5 8 分 閉 会 午前 1 1 時 2 3 分</p>	
2 会議の場所	<p style="text-align: center;">第 2 会 議 室</p>	
3 出席者	委 員	<p style="text-align: center;">委員長 岩 井 豊太郎          副委員長 森      正 弘 早 川 捷 也          松 村 多美夫          篠 田      徹 山 本 勝 敏          野 村 美 穂          酒 向      薫 高 殿      尚          牧 村 範 康          広 瀬      修 伊 藤 英 生          澄 川 寿 之          恩 田 佳 幸</p>
	執 行 部 等	<p style="text-align: center;">別 紙 配 席 図 の と お り</p>
4 事務局職員	<p style="text-align: center;">課長補佐 浅井 珠美          主任 吉 田      歩</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 地域資源を活かした稼ぐ地域づくりと人材育成に関する取組みについて  2 その他	

## 6 議事録

### ○岩井豊太郎委員長

ただいまから、地方創生対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、重点調査項目に基づき、地方創生に関し、「地域資源を活かした稼ぐ地域づくりと人材育成に関する取組みについて」という議題について、御協議いただくため開催したものである。

また、本日は執行部のほか、議題について、その具体的な活動事例を御報告いただくため、NPO法人まちづくりGIFTの代表理事 齋藤潤一さんに御出席いただいている。

齋藤さんは、わざわざ宮崎県から来ていただき、今日、我々の委員会に御出席いただいた。

この委員会は当初から現場主義で行っており、現地へ赴いて進めて来たが、今日は、現場で活躍している齋藤さんにお話しを伺うもの。

なお、質問等は講演の後をお願いしたい。

齋藤さんについては、色々御活躍であるが、説明はこの程度にして、お話しを伺いたい。

(NPO法人まちづくりGIFT 齋藤潤一代表理事 報告)

### ○岩井豊太郎委員長

ただいまの報告に対し、質問等はないか。

### ○伊藤英生委員

チャレンジしやすい士づくりとして、クラウドファンディングなど補助金に頼らない手法を取っているという事だが、そこで、2つ質問したい。

まず、チャレンジしやすい士づくりのために行政ができることは何か。また、クラウドファンディングの失敗事例はあるか。

### ○齋藤代表理事

まず、行政ができることだが、2つポイントがある。1つ目は、場所の提供など、行政だからできる強みを活かすこと。2つ目は、行政とプランナーが互いに徹底的に話し合っ、共通の目的に向かって共に考えていくことが必要である。

次に、クラウドファンディングの失敗事例だが、機能的価値（データ）のみで情緒的価値（想い）を入れなかったものは失敗した。モノを売るにはモノとコトとよく言われるが、成功するためには、機能的価値（データ）と情緒的価値（想い）の両方が必要である。データのみでなく、魂を込めて行うことが重要だと思う。

○篠田 徹委員

きっかけを作る意味においては大変崇高な理念を持ってやってみえるが、収益事業が成功した後、理念だけでやっていきたい者と、さらに利益を求める者といった、方向性が異なる者が出てきた場合、そのギャップをどのように埋めていくのか。

また、クラウドファンディングについても、岐阜においても目標より多く集まった事例はあるが、その後どうなっているのかということに興味がある。

○齋藤代表理事

方向性の違いは当然起こってくることであるので、方向性の違いを必然の事実として客観的にとらえて、話し合っていくことが必要だと説明している。

○篠田 徹委員

その後、どうなったのか。話し合いでうまく両方が折り合っ行って行けたのか、興味を持っている。

○齋藤代表理事

今のところ、話し合いを重ねてうまく進んでいる。間に入る人がいるのもいいし、互いにリスペクトし合うことは重要である。事業のビジョンとミッションをしっかりと立てて、方向性の違う者同士、互いに邪魔をしないように調整していくことが必要だと思う。

○山本勝敏委員

齋藤さんにまちづくりの事業を依頼するには、幾らくらい必要となるか。

○齋藤代表理事

基本的にはお金ではなく、その地域に熱い想いがあり、その想いを共有できれば金額にかかわらず少額でも依頼を受ける。金額がどんなに大きくても、想いが共有できず、ただ「何かやってください」というような依頼は受けない。逆に、想いが共有できれば、1円でもやる。これは地域に発破をかける意味でも言ってるのだが、つまり、地域に想いがあること、その想いを共有できることが重要ということである。

○酒向 薫委員

まず、若い人が活躍できる場をつくっていく必要があると考える。また、クラウドファンディングなどの横文字が受け入れられないような保守的な地域で動きを起こしていくことは簡単ではないと思うが、今までどのような取り組みをされてきたのか。

○齋藤代表理事

まず、古き悪しき消化事業をやめることが必要だと思う。また、若い人が活躍できるよう、若い力を育ていくことが必要である。そのため、例えば、日向市では既存の人材育成塾の見直しを行い、若い人が自由に発言できるよう、参加者に 35 歳までという年齢制限を設けた。反発はあったが、地域のためには若い力を育てる必要があることを説明し、また、35 歳以上の方には指南役として参加してもらうことにより、地域から愛される取組みとなった。

次に、僕は山本五十六の「やってみせ 言って聞かせて させてみて ほめてやらねば 人は動かじ」という言葉どおりだと思うが、まずはハンズオンで事業をやっている。宮崎県で今やっているクラウドファンディングは平均年齢 60 歳のおばあちゃんの集まりだが、まずは金額が少なくてもよいので一緒に売り上げを上げてみせている。地域の方と組んで、少額ではあっても地域のモノが売れるという成功事例を見せていくことが重要だと思う。取り組みを始める時には、必ずいろいろと意見を言ってくる人がいるが、そういう人こそ地域に強い愛着がある人であるため、真剣に向き合えば、取り組みを進めて行く上で強い味方になってくれる。

○岩井豊太郎委員長

質問等も尽きたようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

# 地方創生対策特別委員会 配席図

平成28年12月14日

--	--	--	--	--	--	--	--	--

					尾関 新太郎 清流の国づくり政策課 移住定住まちづくり室長兼イ ント・コンベンション企画監			
--	--	--	--	--	--------------------------------------------------------	--	--	--

堀 智考 観光企画課長	高野 恵介 地域産業課長	浜崎 浩之 労働雇用課長	野原 茂基 商業・金融課長	樋口 博久 商工政策課長	神門 純一 清流の国推進部長	尾鼻 智 清流の国づくり政策課長 兼地方創生室長	稲木 宏光 市町村課長	参考人席
----------------	-----------------	-----------------	------------------	-----------------	-------------------	--------------------------------	----------------	------

